

どらえもんとのび太の宝島 ～漂流と探検の物語～

指導／村田紘一 先生

“身近な自然を学び子どもに伝え育む大人の講座”、略して大人の講座は、指導する大人が、子どもと同じ体験をしてみるという1年間の連続講座。今回はそのメインイベントである一泊二日のキャンプ実習です。場所は阪急北千里駅から徒歩10分にある自然体験交流センター「わくわくの郷」。梅雨の最中にもかかわらずには見舞われませんでした、非常に蒸し暑い日の実習でした。

指導は「NPO法人吹田こども夢・未来協会」の村田紘一先生。プログラムは、「どらえもんとのび太が漂流の末、宝島に漂着し、無人島生活を送る」というストーリーに沿って、野外活動の技術と心構えを一つ一つ学んで行く仕組みになっています。受講者は22名、3班に分かれて行動します。

■1日目 漂着した無人島で「秘密の基地」作り。森に入って、住まい（らしきもの）を作ります。この段階で、各班の性格がかなり現れます。リーダーの指示でさっさと作り上げた班。ブルーシートという安直な方法を採用する班。どのように囲っているのか不明で、空間のイメージは想像力任せという班も。この後、ビバークに必要なテント（タープ）の張り方や、ロープの結び方を学びます。夕食はアルコールなしのバーベキュー。何しろ無人島体験ですから。

日が暮れるといよいよファイアーです。井桁の組み方は絶妙で、上半分から燃やしはじめ、徐々に下を燃やして行くという方法を



■「秘密の基地」まず柱と梁を固定して…あとはチョイチョイで一丁上がり。



■ポールの固定は張り綱をピンと張ることがミソ。ロープワークの基本的な技術が求められます。



■初体験！ アルコール抜きバーベキュー



■「森の搜索」はシニアにはきつい。木陰で一服。

学びました（タイトル写真参照）。厳かに点火された後は、各班が準備してきた歌やスタンツで盛り上がります。ファイアーは静かに始まり、静かに終わることが肝要で、決して騒ぎっぱなしで終わってはいけません。最後は全員で静かにハミングをしながら宴の幕を閉じました。

名残を惜しみながら各部屋に戻って就寝…とまあ規則ではこうなるのですが、そこはシニアです。どこからともなく人が集まり、おつまみが現れ、…あとはヒ・ミ・ツ。

■2日目 朝食はパックドック。ホットドックをアルミで包み、牛乳パックに入れて火をつける。燃え尽きた時がちょうど食べ頃。キャベツも適度に蒸されてとてもおいしい。

午前のプログラムは、侵入者の足跡（目印）を頼りに森の搜索。班単位の行動です。いくつかのポイントで課題が与えられます。道具を使わず樹の太さ・枝の長さ・樹間距離を測ったり、野菜の重さを推測したり、食べられる植物の探索等、様々な課題に取り組みます。

午後は室内で安全管理に関する講義。睡魔と闘いながらみっちりとお勉強。受講生とスタッフのみなさん、指導の村田先生、蒸し暑い無人島の生活、お疲れさま。 （広報 井浦）